
第5章 市公共交通の課題抽出

本市における都市構造の現状や公共交通の運行・利用状況等を踏まえ、市公共交通の課題を以下に示す。

1 市民生活に合致した公共交通サービスへの転換

本市の路線バスは、須賀川駅を中心に郊外へ向かう放射状のネットワークを形成している。一方、市内の大規模病院や市役所は須賀川駅から離れた中心市街地内に分散的に立地し、また多くの市民が利用する大型商業施設は中心市街地外縁部や幹線道路沿線の郊外部に立地する等、都市構造が大きく変化しているため、現在の市民の生活行動と路線バスネットワークが一致していない状況にある。また自動車利用による公共交通離れと高齢化の進行等、公共交通を取り巻く環境は大きく変化している。

そのため、今後は、市民の生活行動にあわせ、路線バスや乗合タクシー、更に新たな交通サービス等を組み合わせ、市民生活に合致した公共交通サービスへの転換を目指す必要がある。

2 交通弱者の移動手段の確保

市の高齢化率は既に20%（平成17年国勢調査）に達しており、高齢者を中心とする交通弱者が自らの意思で自由に行動するため、自家用車に代わる交通手段として公共交通サービスの確保・充実を図ることが急務となってきている。

3 通学需要に対応した公共交通サービスの維持確保

市内完結路線のうち複数の路線においては、朝の通学時間帯を中心として通学利用が存在する。特に、長沼高校線や勢至堂線、仁井田経由滝原線、矢沢経由北横田線、岡の内線では全利用者に占める通学利用の割合が高く、通学路線として機能している。

そのため、通学での利用状況を踏まえた、通学輸送を担う路線バスの維持・確保を行う必要がある。

4 市中心部における移動手段の確保

自動車社会の進展、市街地の郊外化により、大型小売店などの集客施設は市街地の外縁部への立地が進んでいる一方で、公共交通路線はそれに対応できておらず、生活行動における公共交通の利便性は損なわれている。そのため、市民の移動実態やニーズに応じ、中心市街地と市街地の外縁に存在する集客施設との移動を円滑にする公共交通が必要である。

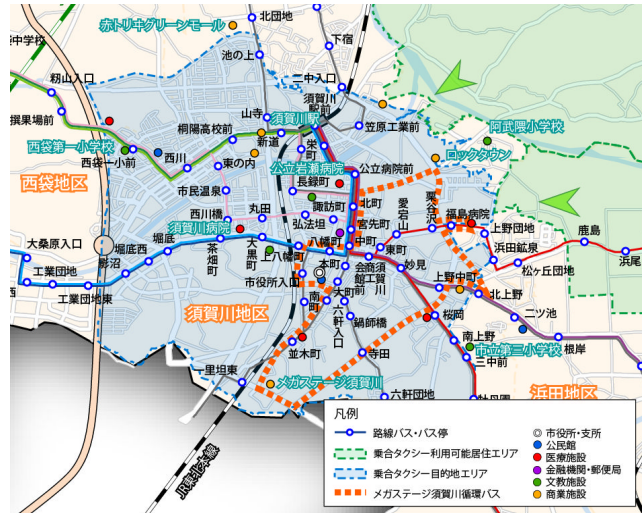


図 5-1 市中心部における集客施設および交通資源の分布

5 市中心部と郊外を結ぶ路線(放射路線)のサービスのあり方の見直し

市のバス路線の多くは市中心部から郊外に向かう放射路線となっているが、個々の路線では、運行距離や運行頻度、利用実態がそれぞれ異なっている。また、全路線共通して、利用者数の低迷・減少が続いている。

他方、合併後の本市において、医療・商業・行政等の主要な施設が集積する市中心部と各地区を結ぶ移動軸は、今後の地域コミュニティの活性化や地域間の交流促進の観点から、その重要性が高まっている。

そのため、市中心部と郊外を結ぶ路線については、今後、持続的に運行可能な公共交通体系を構築するために、路線毎の利用実態や需要に即した交通システムの選択や、運行路線・頻度・時間帯等の交通サービスのあり方を検討しなければならない状況にある。

6 効率的な公共交通体系の構築

公共交通の現状は、自動車社会の進展により、全国的に衰退が進行している。特に地方部においてはその影響が顕著であり、本市においても公共交通利用者は減少の一途を辿っている。

将来的に持続可能な公共交通体系を構築し、市民の移動手段である公共交通を維持・確保するためには、現在、市に存在している路線バスや乗合タクシーなどの交通資源を最大限に活用し、利用規模に見合った公共交通体系の抜本的な見直しが必要である。

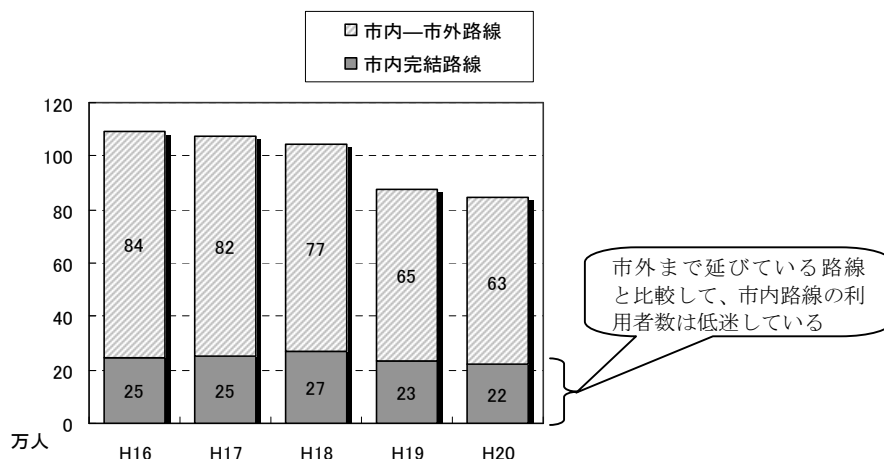


図 5-2 公共交通利用者数の経年推移

7 公共交通に対する市民意識の向上

市民の公共交通の必要性に対する認識は、年代や地区を問わず高いものの、通勤通学を含めた市民の生活行動において公共交通を利用している人はわずかである。

公共交通を維持・存続させるためには、市民の協力や利用促進が不可欠であるため、市民と行政が一体となり、公共交通に対するより一層の意識向上を図る必要がある。

8 産官民の連携による効率的な公共交通サービス提供方法の模索

市内の交通資源は多様な事業者により多数運行されているが、路線バスや乗合タクシーは、郊外から市の中心部などの拠点地域までの単純な往復運行となっており、路線間での乗り継ぎ利便性はほぼ考慮されていない。また、メガステージ循環バスも、商業施設への誘客を目的とした独自の運行であり、公共交通としての連携は図れていない現状にある。

今後、効率的で持続可能な公共交通体系構築のためには、これらの現存する輸送サービスを活かし、横断的な連携によって最大限の効果を発揮できるよう、運行事業者間の連携だけでなく、第三の公と行政との連携なども考慮した公共交通サービスの提供方法を模索する必要がある。

9 須賀川市～福島空港間アクセス路線の検討推進

福島空港は、本市だけでなく、全県的な交通の要所であり、本市及び全県における産業・観光活性化など様々な視点から福島空港の利活用が望まれている。

また本市の総合計画では福島空港を活かしたまちづくりの推進が、また郡山都市圏総合交通体系調査の公共交通マスタープランでは須賀川駅～福島空港への公共交通アクセス強化がそれぞれ位置づけられている。

そのため、須賀川市～福島空港間のアクセス確保について、長期的な視点で政策的に検討を行う必要がある。